
大好きな手

長友 未波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大好きな手

【Nコード】

N1704Y

【作者名】

長友 未波

【あらすじ】

売れない物書き女、にべタ惚れな大学生。
日常のはじつ。

「ねー、まだー？」

……うるさい。一体何回目だ。

さっきからずっとこの調子で参ってしまう。時刻はお昼を回ったところで、今日は水曜日だ。授業が4限からの憂史は、毎週と言つていい程この時間うちに遊びに来る。否、正確に言つと前日の夜から居座る。

そんないつも通りの平日お昼。職業柄この時間に自宅にてパソコンと睨めっこをするのもいつもの事だ。

いつもと違うのは背後から、ねーねー、と絶え間なく声を掛けまくる彼氏。少しうんざりして、ん〜、と適当に返事をしてしまった。

……しまった、と思った瞬間にはもう遅い。

憂史からのイヤ〜な視線が背中に突き刺さる。首筋がゾクゾクするんですけど。

「ん〜ってナニ！彼氏に対して！ずっと昼飯待ってんのにひどいよ茅乃！」

……。

「あのね、私だって遊んでる訳じゃないの。仕事なの。仕方ないの。憂史の相手ばかりしてらんない。お腹が空いたんなら自分で適当に食べていいよ」

振り返ってみると、一人掛けのソファにふんぞり返る年下彼氏。いつもならもつと聞き分けいいのにどうして今日に限ってぴーぴー言うのよ。

頭から湯気出ちゃいそう。

ん？

あ、やば、目が据わってる……！

「憂史……くうん？」

キモッ！

ここは、本格的に拗ねる前に何とかしなきゃ。なんて思って、我ながらなかなか媚びた声を出してしまった。

「……どうせ茅乃は今日何の日か忘れたんだろ。だからそうやって嬉しそうに仕事詰め込んで、俺をほったらかすんだ」

はい？今日？……何かあったっけ？

私の媚びた気持ち悪い声にぴくりとも反応を見せず、憂史は目を伏せてクツシヨンの端っこを手の中で遊ばせて言った。

「俺は朝から楽しみにしてたのにさ……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1704y/>

大好きな手

2011年11月3日03時07分発行